



あつというまの解体工事

気づいたら、近所の住宅が解体されていました。娘さんが練習する、ピアノの音がよく聞こえてきたお住まいです。少なくとも、昨春まではお母さんが暮らしておられました。お元気でしたが、旅行帰りに急死され、ご子息が売家にされました。しかし売れなかったようで、思い切って更地にされました。土地の形がよいので、すぐに売れるでしょう。

解体工事は素早く進みました。防音シートを掛けた翌日には解体開始。2日目には8割方作業が終了。3日目には上部の防音シートを取り外し、植栽と塀以外はなくなりました。4日目には植栽と塀の半分が除去され、今日（執筆時）でそれもなくなることでしょ。1週間もかけずに、立派な家が消えてなくなりました。

住宅建設の工期はどんどん短縮されているようです。解体作業は1週間もあれば更地に戻り、うまく売れたら、1カ月もすれば新しい家が建つ。前記の住宅は、前の住人が亡くなって1年以内に新しい家が建つ可能性もあります。出張に出かけている内に近所の家がなくなり、海外赴任から帰ってきたら新しい家が建っていた。そんなことも現実起こっていきそう。多くの人にとって人生最大の買い物である住宅も、その世代限りの耐久消費財になったようです。核家族化が進み、親子の住む場所が異ると、住宅はその世代だけが使用する消費財に転じざるを得なくな

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲1週間弱で解体された住宅

ります。住宅に使われていたたくさんの材木は、産業廃棄物として処理されるのでしょうか。もったいないという気持ちも起こります。

更地になった土地以外にも、拙宅の近所には空き家が多くなっています。前段階で高齢者の独居があり、その方が亡くなると空き家になる。そうでなければ解体。なかには、植栽の手入れが不十分な空き家も出てきます。防犯の心配もあります。相続された方が、愛着があるが使うこともできない、という状態なのでしょう。しかし、長く空き家が放置されると、それは地域の不良資産にもなります。

近所の住宅が解体されることは寂しいことです。しかし、住民がいない住宅が不良資産化するのを防止するためには、いったんリセットする作業が大切。慣れた環境がリセットされることで、新たな近所づきあいが始まるのかもしれない。

(MBO 実践支援センター代表)